



Vol.12

# ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた  
本田優子(札幌大学副学長)と  
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、  
その魅力をソノコ(=お便り)形式で  
語り合います。

イラスト/安田千夏

## キムンカムイ(山の神)



春、解けかけた雪が夜に固く凍りつ  
いて雪の上を自由に歩ける堅雪の季  
節は、アイヌのクマ穴狼がおこなわれた季節。  
キムンカムイ(山の神)と呼ばれるヒグマ

は、毛皮や肉を土産に人間の国にやってくる  
偉いカムイ。まるまると太ったクマは、アイヌ  
の目にはどっさり大きな土産を背負ったカ  
ムイと映るんだとか。

十年前、野生のクマが博物館の敷地内に  
侵入したことがあったんだよね。それも、二日  
続けて。一日目はごみ集積庫を壊してサケの  
内臓だけあさって逃走。二日目は侵入するも  
祭壇の前を歩き回った足跡だけ。「食べる物  
も無いのに何で来たんだろ。(神の国に)送っ  
てもらいたいのかね?」と考えたりもしたん

だよ。山の中腹に棲む黒毛のカムイは性格  
も良くておとなしく、麓に棲む赤茶色のカム  
イは性格が悪くて人に悪さをするといわれ  
るけど、博物館に遊びに来たのはどっちだっ  
たのかな?近くにいると思うと怖くもあつた  
けど、元々はカムイのテリトリーを私たち  
が侵入しているわけだから、捕まらずに無事に帰  
ってほしいと願ったのも本当。

猟師の姉崎等さんの聞き書きした本「クマ  
にあつたらどうするか」に、「逃げるのは一番だ  
め!どんなことがあつても絶対に背中を向け  
ない!」とあるけど、実際に遭遇したらどん  
な行動をとるかかわかんないよね。でも、どの森  
にもクマはいると考えて行動するのがベスト。  
優子さんはクマにあつ  
たらどうする?



そうね、  
こちらをジッ  
と見つめてラブコール  
を送ってくれるなら、  
ちよつと考えちゃうか  
も:なんてね(笑)。

実際、アイヌの物語  
には人間の女に恋をす  
るクマ神がたくさん登  
場するよね。  
そもそも、伝統的ア



アイヌの世界観では、カムイモシリ(神の世界)  
でのクマ神は、人間と同じ姿をしているとの  
こと。ただし、本体は靈魂で、アイヌモシリ  
(人間世界)を訪れる時に壁にかかっている  
衣裳を着ると、私たちが目にするあの大き  
なクマの姿に変身するんだって。衣裳は、肉  
や毛皮、貴重な薬である熊胆など、人間達へ  
のプレゼントになるの。私たちが目にする  
様々な動物や植物はみんな、人間世界を訪  
れるために変身した神々の姿ってわけ。

さて、アイヌモシリにやって来た恋するクマ  
神は、なんとか人間の女を神の世界に連れ去  
って結婚しようとするんだけど、生身の人間  
は靈魂の世界であるカムイモシリには立ち入  
れない。そこで、女の肉体と魂を分  
離:すなわち殺そうとするの。

でも、物語にもよく出てくるんだ  
けど、やはり「神は神同士、人は人間  
士」というのが基本的規範だから、  
ほとんどの場合クマ神の企みは失敗  
して人間にこっぴどくやられるの。  
でも、その時にも「神も人も恋心ゆ  
えの過ちはあるものだから」と言っ  
て最後には許しちゃうところが、な  
んとも素敵で大好き。

で話を戻すと、博物館をウロウロ  
してたクマの神さま:きつと美幸さ  
んに恋してたんだと思うよ。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌの子供達へのアイヌ語教育に携わる。

■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。(財)アイヌ民族博物館 専務理事。先住民族アイヌの一員として、アイヌ文化伝承と普及啓発活動に努める。